

平成十七年度 二松學舎大学人文学会役員（五十音順）

会 長	野村 邦 近
運営委員長	磯 水 絵
運営委員	家 井 眞・白藤 禮 幸
	五 井 信・佐藤 進
	（武 永 尚 子）
研究委員長	家 井 眞
研究委員	小 渕 朝 男・瀧 田 浩
	佐 藤 進・高 柳 幸 雄
	寺 山 葛 常・源 川 進
	矢 羽 勝 幸
編集委員長	白 藤 禮 幸
編集委員	浅 野 進 太・五 井 信
	椎 木 伸 治・林 謙 太 郎
	山 口 直 孝・横須賀 司 久
	渡 辺 了 好
会 計	武 永 尚 子
会計監査	難 波 正 久・谷 口 貢

△編集後記▽

本学に着任してわずか三年目の者が、この後記を書いている。

「人文論叢」75輯をお届けする時期となった。しかし、遺憾ながら本冊の投稿も決して多数とはいえない。学会の豊かな財政状態からすれば、薄い冊子となった。本学に来て驚いたことの一つに、大学の規模に比して、大学、大学院、研究所などに多くの機関誌を持っていることである。自分の研究を活字にする機会が学生にも開かれている点は、他大学の学生と比べても大変に恵まれているのである。残念ながら、会員の学生諸君にはその事はあまり自覚されていないようである。年二回の人文学会の研究発表の希望者を揃えることに係の教員が苦勞しているこの状況は憂慮される。修士論文の提出要件にこのような研究会での口頭発表を課すことを考えるべきかもしれない。

この人文学会の構成員の大部分は文学部の学生である。卒業論文やゼミ活動の中でも成果を挙げ、是非とも力作をものして、積極的に投稿を願いたい。更に希望したいことは、多数の現職教員の寄稿である。本誌の洛陽の紙価を貴からしめるためにも絶対に必要なことである。

編集委員長 白藤 禮幸